

支部長県持ち回り・他

(公社) 空気調和・衛生工学会北信越支部
第35期・36期支部長 神 成 孝 則



くだらない話と思いながら耳を傾けてください。

第2期から第17期6月まで支部長を務められた浦野善之助さん(長野)、第17期7月から18期支部長の役山孝之さん(新潟)、第19期・20期支部長の前田清一(富山)の故人3名の方々は何故か今でも忘れられません。

35周年記念誌の記録と私のかすかな記憶を紐解くと、多分昭和61年4月か5月でした。「神成君、今日浦野さんという方が来るので一緒に話を聞いてくれ。」「ハイ、わかりました。」とは言ったものの何の事かさっぱりわかりません。

話の流れとしては、浦野さんもお高齢で東京のお孫さんのところに行くので、役山さんに支部長を引き受けてくれという事でした。今でこそ支部事務局は菱機工業(株)(石川)にありますが、当時は支部長在籍の場所に置いていたようです。

記念誌記録の通り7月より浦野さんから役山さんに支部長途中交代。浦野さんからはキャビネットの他、大量の書類が菱機工業(株)新潟支店に送られてきました。

浦野さんが来られて間をおかず前田さんが新潟に来られました。やはり私に立ち会えという事で駅前のレストランに行きました。お二人とも驚くほどの論客で「口角泡を飛ばす勢い」で話しています。私にはさっぱり理解できませんでしたが、多分北信越支部の運営など、将来について話していたと思います。

結局この期より「支部長各県持ち回り」が始まりました。

私が常議員・幹事等役員名簿に名を連ね始めたのは第25期(平成6年度)、実質新潟県代表として活動を始めたのは第31期(平成12年度)、そして第35期(平成16年度)・36期(平成17年度)に支部長を務めさせてもらいました。

本部支部長会に出席した時の事です。殆どの支部長・理事は大学・企業研究所等学術関連出身者に驚きました。それが何だという事ではないけれど、多分北信越支部での学術的遅れを表しているような気がしました。学術関連ではわずかに浅野良晴先生(信州大学)・垂水弘夫先生(金沢工大)お二人に頼っている程度でした。

さっそく各県に大学とのコンタクトをお願いし、数年後、学術委員会も誕生し活動の緒につき始めました。又、近年は支部長・県代表にも名を連ね活動を始めました。まだ民間業者・官公庁との交流が少なく、若干社会的常識にうといという部分は感じますが、積極的交流を進めて欲しいものです。

北信越支部5県、会員数の数の違いはあるはと言え、各県毎に体制の違い・力量の差を感じます。産官学ちからを合わせて北信越支部発展につながればと期待しております。